

遊びゃものづくりを満喫

～コーザンスペシャルウイーク～

5月3日(土)から5日(月)までの3日間、ふおれすと鉱山で『コーザンスペシャルウイーク』（NPO法人モモンガくらぶ主催）が行われ、参加者は自然を生かしたさまざまなプログラムを楽しみました。

ゴールデンウイークの恒例となっているこのイベントは、今年は地球のことを考えて行動する日『アースデイEzō』として開催。のんびりとした森の時間の中で過ごしてもらおうと、屋外では、満開の桜を見ながらお茶を楽しんだ『春の野点』や小さなTシャツに落ち葉や手形でスタンプしてオリジナルTシャツを作成した『自然のアート』、むいた皮の長さを競った『間伐材の皮むき選手権』、たこ揚げ、竹馬などが行われました。

屋内では、『マイ箸づくり』や『草木染め体験』などが行われ、思い思いの作品を作り上げていました。

参加者は自然の中で遊びゃものづくりを満喫していました。



▲自然のアート

縄文人はどんな生活をしていたんだろう

～縄文出前講座～



4月25日(金)、鷺別小学校で『縄文出前講座』（市主催）が行われ、同校の6年生48人が縄文時代について学びました。

この講座は、縄文人が使用していた土器や石器に直接触れ、本物から得られる感動や、縄文時代の文化、生活様式などを身近に感じてもらうと開催しています。

はじめに、市の学芸員が縄文人と弥生人の顔の違いや、縄文人の生活を紹介しました。

児童は、市内で発掘されたつぼや矢じり、すり石などに実際に触れ、重さを確かめたり、臭いをかいだりと興味津々。「縄文時代にお金はありますか」「いつ寝るんですか」「昔の人は何の遊びをしていたのですか」など、児童からたくさんの質問がありました。

多くの方と交流し、楽しく学びます

～平成20年度登別市ときめき大学・
婦人短期大学入学式・始業式～

4月24日(木)、市民会館で『平成20年度登別市ときめき大学・婦人短期大学入学式・始業式』（市主催）が行われました。

ときめき大学は、60歳以上の方を対象に高齢者相互の親ぶくを図り、多彩な能力を社会的に生かしてもらおうと開設。婦人短期大学は、20歳以上の女性を対象に生涯学習の意欲啓発や学習機会の提供を目的に開設しています。

ときめき大学の新生23人と婦人短期大学の新生13人を代表して岩佐春江さんが、「学習や体験をとおして、自己を向上させ、心豊かな自分をはぐくむとともに、『志』を同じくする多く仲間の方々と積極的に交流を深め、お互いを高め合いながら、楽しく学習します」と誓いの言葉を述べました。

